

短期決戦における強さとは

探究活動のきっかけ

去年の日本プロ野球は、セントラルリーグ3位DeNAベイスターズが、NPB史上最大の貯金差40を覆し、下剋上日本一を決めたが、先ほど述べた貯金差からも分かるようにレギュラーシーズンにおいて圧倒的な力の差があったと思われるが、なぜその力の差を覆すことができたのか、それにはなにか要因があったのかを過去の日本シリーズの結果から予想したいと思ったから

調べたこと

図1 2019 西武、ソフトバンクの打撃成績

チーム	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	盗塁	盗塁刺	犠打	犠飛	四球	故意四球	死球	三振	併殺打	長打率	出塁率	
西武	.265	143	5619	4898	756	1299	229	23	174	2096	718	134	49	78	38	556	23	49	1083	88	.428	.344
ソフトバンク	.251	143	5345	4775	582	1199	172	19	183	1958	559	113	49	100	30	397	21	43	1084	85	.410	.312

図2 2019 西武、ソフトバンクの投手成績

チーム	防御率	試合	勝利	敗北	セーブ	ホールド	H.P	完投	完封	無四球	勝率	打者	投球回	安打	本塁打	四球	故意四球	死球	三振	暴投	ボーク	失点	自責点
西武	4.35	143	80	62	35	91	117	3	8	6	.563	5623	1281.2	1313	143	509	10	93	875	56	5	695	620
ソフトバンク	3.63	143	76	62	49	137	162	3	13	5	.551	5446	1278	1114	137	550	11	67	1160	35	6	564	515

2023年

各球団の主力選手の平均

	盗塁成功率	得点圏打率	守備率
阪神タイガース	0,435	0,299	0,984
オリックスバファローズ	0,440	0,287	0,989
その他の球団	0,398	0,274	0,987

日本シリーズ結果

	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	第7戦
阪神タイガース	8	0	4	4	6	1	7
オリックス	0	8	5	3	2	5	1

阪神タイガース4勝 オリックスバファローズ3勝

仮説

打撃だけでは勝てない
得点圏打率は勝敗に深くかわる
守備率も求められる
このことから、何かに特化しているだけでは勝ちにくい、だから、全てにおいて均等にバランスよくチームを強化をすることが大切だろう

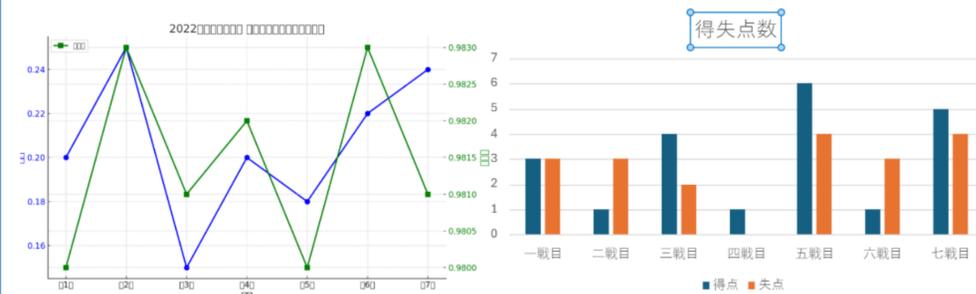
二宮啓太 船田壮太
西本龍生 藤井堅太郎

2021年

順位	選手	打点	球団	順位	選手	盗塁成功率	球団	球団ごとの守備率
1	岡本和真	113	巨人	1	中野拓夢	938	阪神	
2	村上宗隆	112	ヤクルト	2	植田海	909	阪神	守備率
3	山田哲人	101	ヤクルト	3	塩見泰隆	808	ヤクルト	球団
4	鈴木誠也	88	広島	4	近本光司	774	阪神	1
5	オーステイン	74	DeNA	5	松原聖弥	682	巨人	2
6	宮崎敏郎	73	DeNA	6	大島洋平	667	中日	3
7	佐野恵太	72	DeNA	7	桑原将志	632	DeNA	4
8	マルテ	71	阪神	7	村上宗隆	632	ヤクルト	4
8	牧秀悟	71	DeNA	9	高松渡	625	中日	4
8	大山悠輔	71	阪神	10	梶谷隆幸	579	巨人	6

日本シリーズ2022

オリックス4勝2敗1分（勝率 0.667）



- 青線：試合ごとの打率
- 緑線：試合ごとの守備率

オリックスは、シリーズ全体を通じて安定した打撃力を発揮し、要所で得点を重ねることで攻撃面で優位に立ち、さらに堅実な守備力によって失点を最小限に抑える万全な戦いを展開しました。特に接戦となる場面でも冷静な対応を見せ、チーム全体の総合力の高さを証明する形で、勝率0.667を記録しながら日本シリーズを制覇しました。

今後の課題は個人の成績や守備の采配などから今よりも深く分析し短期決戦における強さはバランスよく強化することあっているのか細かく調べていきほかの要因についても追求していきたいです。